

徳島県立農林水産総合技術支援センター 令和元年度第1回外部評価委員会会議録

日時：令和元年8月29日 午後1時30分から午後4時
場所：徳島県立農林水産総合技術支援センター 大会議室

1 平成30年度 外部評価の反映状況報告

資料4に基づき担当課から説明

<質疑応答>

● 野菜栽培圃場環境整備の支援

委員：野菜栽培における環境整備について新技術導入による排水対策はどのような圃場に設置するのか、目標は定めているのか。

高度技術支援課：県南の湿害を受けやすい地域において、排水対策を進めていくよう考えている。

● 就農支援について

委員：就農確保の実践目標に具体性に欠けているが、新規就農者数は把握しているのか。

吉野川農業支援センター：新規就農者数は、毎年国の調査に基づいて調査を実施しており、当センター管内においては、平成30年度は14人(全て阿波市)、平成29年度は19人(阿波市14人、吉野川市5人)が就農している。

● 教育研修業務の評価について

委員：「地域農業」や「高度技術研修」を科目として設定しているが、学生の視点に立った評価は実施しているのか。

農業大学校：講義の終わりに感想や分からない点等を記入するレポートを書かせており、レポートに、学生の意見を記入できるよう項目を追加する。

2 普及指導業務の評価

資料4に基づき担当課から説明

● すだち安定出荷に向けた技術改善

委員：「点滴灌水システム」は、樹間にパイプを敷く仕様となっているが、作業の支障はないのか。

徳島農業支援センター：設置直後はパイプが浮くなどして、少し邪魔に感じるが、除草後はパイプが土に埋まっていくため、特に支障はなくなる。

委員：土に埋まっても、パイプは機能するのか。耐用年数はどの程度か。

回答：ゴム製で頑丈なため、特に問題無い。個人の使い方等にもよるが、耐用年数は7年～10年ほどである。液体肥料にも使用可能で、その場合はパイプに水を通すなどして洗浄すれば長持ちする。

● なしの生産安定対策について

委員：なしのジョイント仕立ては、収穫までの期間を短くできるのか？

鳴門藍住農業支援センター：主枝を一本に通すことで、多くの根へ肥料が供給されるため、果実のなる枝が、既存仕立に比べて早く成長する。

● れんこん新規就農者の確保について

委員：れんこんの初期投資は、他の品種に比べると高いのか？

鳴門藍住農業支援センター：れんこんは、他の品種に比べると経費が少ない方であるが、堀取り機械が必要となり、新規就農者にとっては、機械の整備が負担になる。

● 普及指導の体制について

委員：全国の普及指導員数及び事業費が、大幅に減少している。支援センター全体として、こうした現状及び体制をどう考えているか。

農林水産総合技術支援センター：石井センターでは、県職員のスリム化やサービス提供効率化のため、農業や果樹、農業大学校を1つの拠点とすることで互いの知恵を出し合い、地域の生産者が抱える課題を解決していく体制をとった。こうした中、県職員のスリム化に伴う人的パワー不足を出来るだけカバーできるよう、大学と民間、県が互いに連携し合い、生産者へのサービスを維持しつつ、新たな技術を普及していく体制を構築していきたいと考えている。

3 教育研修業務の評価

● 気象変動に対応した教育活動の取組み

委員：「気象変動に対応した教育活動の取組み」について、暖冬気象に重きを置いた対策や取組を行っているが、反対に、冷夏気象に対する取組を行う予定はあるのか。

農業大学校：現時点では、具体的な取組案は無い。気象動向等を見つつ、今後の取組や対応策等について考えていきたい。

● アグリサイエンスゾーンにおける人材育成について

委員：アグリサイエンスゾーンの1つの役目は、一般の農業者に対し、高い農業技術やノウハウ等を反映させていく事だと考えている。現在、かんきつアカデミーを開校しており、その成果を待つところではあるが、かんきつ以外の品目でも、技術者を養成するアカデミー等を立ち上げてはどうか。

農林水産総合技術支援センター：現在、本県では、みのる産業や株式会社誠和など、日本最先端の企業と協定を結んでいるところである。こうした企業の方々と連携しながら、人材育成や生産者への普及について、積極的に考えていきたい。